



## 日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 8月24日発行 第 9 号

そねはじめ事務所  
114-0032  
北区中十条2-11-6  
Tel:3907-1135  
Fax:3906-3225

# 区は日常以上の放射線濃度の場所を除染すべき 赤羽公園など共産党区議団が指摘

## ●6月からの北区と都の調査で、北区内に“ホットスポット”は未発見

共産党都議団が5月25日に発表した都内128箇所の空中放射線量測定の結果が大きな反響を呼びました。同時に共産党北区議団も簡易測定器を入手し区内の放射線の測定を開始。



こうした取り組みを通じて、都や北区も北区内の測定を実施せざるを得なくなり、すでに数百箇所の測定が行なわれ、北区のホームページに公表されています。区の数値では、区内に特に高濃度の地点は、いまのところ発見されていません。

●北区議団の精密測定で、赤羽公園などに高めの濃度地点を発見

## ●北区議団の精密測定で、赤羽公園などに高めの濃度地点を発見

その後、専門家よりシンチレーション方式の精密

な測定器もお借りして8月にも測定を実施しました。

その結果、赤羽公園の植栽部分などに日常より若干高めの数値が測定されました。

### (右の写真がお借りした測定器)

共産党区議団は、こうした独自測定の結果を北区にも伝え、区の責任で放射線が高めの地点について、必要な除染措置を検討するよう要請しています。

## ●原発ゼロめざす署名に全力で

また、そねはじめ前都議と区議団は、8月の猛暑の中でも駅前などで原発ゼロを目指す署名に全力を上げています。

北区内の各支部・後援会の皆さんとも協力し、署名数は2500筆を突破しています。(上の写真は王子駅前です署名行動するそねはじめ前都議、山崎たい子区議)



# ★ そねはじめ前都議は8月23日 から震災救援ボランティアへ出発 ★

★北区から4回目となる震災ボランティア派遣が8月23日(火)に出発しました。

今回は、お米をはじめ、百人以上の方がたから貴重な支援物資や義援金をお寄せいただきました。心から感謝申し上げます。

★支援物資として、切望されているのが、お米です。現在までに300キログラム確保し、23日に現地へ搬送しましたが、さらに今後もお提供をお待ちしています。

## 共産党都議団が申し入れ

### 「東京の最低賃金を千円以上に」

### 「石原知事は靖国参拝や教育への管理・統制をやめよ」

8月にはいり、日本共産党都議団は、都内の労働者の最低賃金を時給837円とし、わずか6円の引上げを答申した政府の審議会決定を抜本的に見直し、少なくとも時給千円以上に引上げることを、東京労働局に強く要請しました。

2年前の答申で、政府は最低賃金と生活保護の逆転を解消する方針を出していましたが、その後も小幅の金額引上げを繰り返しています。

#### ●生活保護なみでも1230円は必要

以前、都の生活保護担当者は国の審議会で、都内23区のアパートに住む単身の青年労働者が、生活保護と同水準の暮らしを維持していくためには、生活のための基本的な費用に加えて、23区の平均的な家賃、医療費等を合計すると、フルタイムで働いても時給で1230円以上が必要となることを明らかにしています。

都議団は、少なくとも時給千円を一日も早く実現しなければ、東京の労働者は貧困から抜け出せないと訴えました。

#### ●石原知事は憲法破り

また、8月10日には、終戦記念日を前に、石原知事の靖国参拝中止を申し入れました。

都議団は靖国神社が「戦没者の純粋な追悼の場所ではなく、過去の侵略戦争を肯定・美化することを自らの使命としている組織」であることを指摘。その上で、都の代表である知事が、参拝することは神社の政治的立場を公的に認知することであり、侵略戦争の反省の上に築かれた今日の国際秩序に背を向ける行為として、厳しく批判しました。

しかし石原知事は「みんな日本人なら参ったらいい」などと参拝を強行しています。

### そねはじめ交友録 <その四> 二人の元議長から「彼はいいやつでね」と 気に入られました

なぜかお付き合いの全くない2人の自民党の議長経験者から、かなり気に入られていました。一人は都議初当選のころ決算委員会で一緒だったA氏で、定時制高校統廃合を「教育の名に値しない」と追及した私の質問に、委員会のおと「君の質問は木村（陽治）君に似てきたね」と最高のほめ言葉をいただきました。

もう一人は昨年亡くなった川島忠一氏で、数年前予算委の理事として議長の川島氏に挨拶に行くのと歓迎してくれ、帰りがけ他の

自民党議員に「彼はいいやつでね」と異例の紹介をしてくれました。経済港湾委員会で離島の問題を熱心に質問したからかもしれません。昨年川島氏追悼の都政新報で、小笠原復帰40周年行事で「自衛隊に反対しながら水上艇に乗ってきた」と暗に私を揶揄した知事挨拶のおと、「自民から共産まで小笠原復興で都議会は一致協力」と助け舟を出してくれた川島氏の懐の深さを讃えた元議会局長の追悼文を載せていました。

お二人とも自民党都議でありながら、臨海開発にのめりこんでいた鈴木知事や、乱暴な物言いの多い石原知事に対し、冷静な目で見つめていたからこそ、都政にまっすぐ批判の矢を放つ野党の後輩議員に対して、少しだけ共感を抱いてくれたのではないかと勝手に想像しています。

小笠原行き自衛隊機の記念写真。後列左から3人目がそね前都議。その右二人目が川島氏。前列中央が石原知事（2008年7月3日）

